新板
繪入

埋忠遺茶山

三之巻

特別
へ13
4338
3

和久出石

浮世情茶山人

第一 大舘家の私ハ糞屋顔

月琴

主の云付句ふと肩ぐるゝ手く滅れ

粉灰の玉手和ぶ切まゝ足りとへもらくぬ

雅楽と武士もかつらし勝ち雪

二之巻

黒田文庫
黒門通一條上ル
帯屋半兵衛

N13
4338
3

<2003-019>

才二　執権職の繼ハ優婆塞金

母のこゝハ異ふつひこ孫の孫洞の魚ハふつて

つゝこゝ紅色し歌と荷てゝる樽紙ハ

女の雪義卑酒をとゝバおとゝの古孫

才三　貞人節婦の操ハ迦陵若

吾ひぬ女業ハ孔離の靈守メて妻藥師い

一こゝふゝひ切さゝ髮こゝを佛果のゝ結

ゝり玉ふ玉のゝけハ業代家帝の長純

京堀川通九条屋四兵衛
本屋屋藤三郎

第一大舘家の私ハ冀富就

落ふ子ふ子離疏をゝるハ。ふつ。ぐゝその祇醪酒。ゝ。

ひのゝりゝゝよくゝゝと。ふて。ゝ。ゝもゝゝまゝゝゝ。ゝ。ゝ

ゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。

寢所より抜とりて出ずこの夕べ人まいりて。富士の
雪ゆんざるやうふ子まとりてけるぶいろさぬそうまぞいろ
ぞや今清明ぶ抜出庵まして奏せーごとく。関の宮西の月角
の日の角北作の女の生膳とりて。富士拵現この花さく
や姫ようまぬてそのあとかくや姫ようのまをまび新病ふ
とうーいひー事とおりひいはーせてまいたごまうーまう
のーまがりぶとかくやふのまーせて。病を金ーてやれぶ。
ふ五ん五ーまーせるといふりのぞその弦ーてのつひさぬやう
みーて我ぶまふいまんとまーーぶんのむまーまの老と授ま
ーるぶ。ちーく今の第鏡ふーまーて。さぶーはいさぶひとり
ちんーとーとやーてみーまーるけりーふ。飛ぶいーとまーく
あ元優れ豊ぶ母新ぞのうまーまーふはーまーりと。はーはあーーる

ふしはさいーい秘事いまーつげーとやーはーて。はーりーーはーるを
ちんざいは松茸ふーー入て。松茸ーとりーめ第ーるやうふーるもので
はーーぶーーふしまーーふーーれーーぶ西を。ーーーのあーまを作ふ
ふーーぶーーーぶーーーーーーーーかーーてふーーーーーーーとは
ひーぶはけーるいんぞれーーやーーもーくはんで意とーーーーーひ付
ーーーーーー事ーーーり。やーーて松金とーーーーーーーー海とーーーーー事ーふの第ふ
あーーーぶーーーーーーーー

ぇろとぃひ
つけさぞ
うこさぁ
ゆーさ

いひけるまてに、もし十方とうるひ、ちぐ〜ゑ、ゑ〜ていさ
ふ〜きいのねぶ、ぬ、ひ、ふ、ぬの一ゑ、ぐ〜、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ
いや〜もいてまてどかーうゐ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ
ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、

そちハ去歳ちゑくらかまゞ母と都をとりこぞ[illegible]
ゆくゑくしけて富士へまつゐし[illegible]
かゝる無ぞやゞてきまり接ね織のむるひもくくとまて
して不二をさしてでいそぐゆく。

第二 桃太郎の鬼退治

後漢の単孤ハ言なふ羅り富さくてもその母敵申ま
らくられぐ宮とさて敵よくゞりたくくいくども出居
の名ハ桃ごこまいんとも母ゝ世まりあふりそのゝ敵
ま降るゞりして我ゞ能と名てかゞこさゞ今ま宮ちりと
いふぽま優ね皆名ゐまかりてたくく妻とめゞらし女
房ま仕事とりくくかりいやゝ。ゝ屋りかくの敵
とりくりハ身ゞ一生を命下の場りゝ。いふ名我ふまバと

りてそやく。母ハゞれこゝまゞとゞりて分ゞまりけひび
るの感さんてくまりひ付母ゞ生腸とくくゞ。ゞ
くくこさ名のめゞくりてゞくめいひつけまくハかく
ゞけふ。ゞまてまけてりのいくと事あり。天竺唐土
のひとあ名義りくて。ゝ下羅悟空とくゞ。ゞ世の間て
ゞいの敵ま名くくゞ。男名くくたくくゞくくくゞ
ゞくくゞ。ゞまゞ怪物名くくくく

つく思ひもてまうつぼまゝ物もせずに角とくさんくちをつぼまゝ
ばかりなるこゝろをいふ〳〵ぬきまるまゝばてゞあるまゝとまゝ
あんへて。母とかゝらぬ物をあらせてかいていんくとまうち指の用
をゝとしてゆくゝちの露もなきまゝ母をたらくくうんざまゝ。
こゝで世の中いかゞろの中まつの表ぱくゝ物をなれさるゞ
るゝひるゞぐんざい母とあの糸をしてかくたゝらの事を
ばるゝゝとおるゞくくまゝ母のものかる義のゆくさをとゝ。
るくあゆゞばこゝかやうのかるいろ保のおれとも三四のの浦
いるゝゝのくまるゞよゝ。ぐもかくまゝくくゝ元二の鬱ふ
つゝくゝゞ。母とおるゞ義ゝゝろゝ。首中くおひゝてまうゝ。
ゝんを凝ゝゝゝいゝとゞゞのゆくゝるゞ。母ハれまゝるゞ貧中
ゝゝるまとゞゞて。道のゝゝゝの屋とおゝゝけ指とまゝて。

あゞものやゝかるゞくみるゝゝ。ちん指ぶかいゝゝ。
のかゝいゝゞゝるゝ出ばゞ母ハくつてゝる義ひゝてゝく
ゝりの元ぱまゝとゞまゝてゞ出ゝくゝゞゝるゝばのゝあゞくゝ、
ゝまゝばゞゝゝゝゝゝゝハ行の時ゞ市まゝぬゞまゝゆ富さくさん
けいるゝゝまゝばゞ地市ゝゝぐみゝて指ゞゝまゝばゞゝゝひと近る
義指のゝめゝいゝゝつゝゝて。減ハまゝんのいひつゝまゝて。指まゝ
ゞいまゝ操とゝゝゝめゞあゝゝゞゞ地ゝゝゝゝまゝいまゝのゝんまゝん
まゞいゝゝゝゝゝゝ

とゝさまのこゝろ、おのしらざるときと宮ゝてをどらん時ぞ乃ふ
ゆゝしくいとおしくその声ゆるす乃ふ

わかやぬとさとりくてゆくこゝろ

我ゞ血とゝけゆくこゝろ

こゝろ八ぢ富さしてゆくこゝろ

昔八ちゝはゝとみるすべてゝこゝろ

まゝ母ゝて母の親とゞ枝ゝの

こゝろ乃まゝの枝とまゝてゝ枝ゝの

者邪鬼ちゝこゝろ乃ゝ八母のきゞとゝ

らゝ八ぢ母とゝ中へゝて

ゝ乃ゝ母ゝ乃ゝ

ゝ乃ゝ

ゝ乃ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多年のちうぎぐん
あすけやまさう
きまさうんまわるぞ
おつくり

ひめいとくやく
これとりえんどやくとるのゝん
うふさけちうや
えやくのみたまへ

そこ世五合筆こそでさぶり新ふ和そくこの鏡よ尉絵の方
佩当とこく言くぞこそこうりこくぐあくこまつこて行くこと。
白髪五名ゆりの仕下どもぞのとこの新きこよ面こうこてこ
髪とめこぞこの指このこ記でい穴一ゆこておるこ面。源氏
初絵のちゆんるやこうちりぞ大絹こ席とこぐこ冠の纓とあ
ふここのこまくい清涼殿ふいようこくこのこてあこうかく
や姫あんくこふこくぐおしこいひくこ記事ありこ筋こりく
ぬぐらこまぐかここまりここてまりこ良家華こ命やこて孫よ
おりつこ手仕こまぐぞこうこうこるくこれくくかやこのあこびふ
ここてふんのこ面のこんかどもぐこりこふこちくこぐやこぐこいこ面ぐ
てぐあらふぞここここぬくまここふひかくやくここのゆこと
ここおこんぐぞいつぐぞいここのよぐぞんこぞおまぐあいくこよせこて

かりてこれどもかくやぐいつこい今こせあゆくいこくこと男業
こてぞづかくくのここりこあこりこぐ面このこりふぞぬかりく
こぞうまここの女あこーゆくぞのゆこの絵れここ面こ
母の生撫ちりこ右の弧の法ふとこりこりぞアりくや見このん
ここのく弧ふ面こここやこふここここ。
ここりもぞりこまりこ面このいんも月りここりこふこりてかくこ弧
ここんくくこゆくくこぞこいこここのぐくこかくやひあこりあんぐ。
こりこりぐくこここここ切ふかこりここのいふやまひぐふここくいふ
てんこの生撫ぐめまこまこせこうこぞこりこここここてやまひぐ
ふここばここの面ぐあこりゆくぞここんこのおんこまこぐここいこりませ
ぬぞこまぐでいこりくここんくくここここばこここりぐくいこで
こここここぞこりやこりこぐこぐこりふくくこまここくぐかこりふくくこまここ

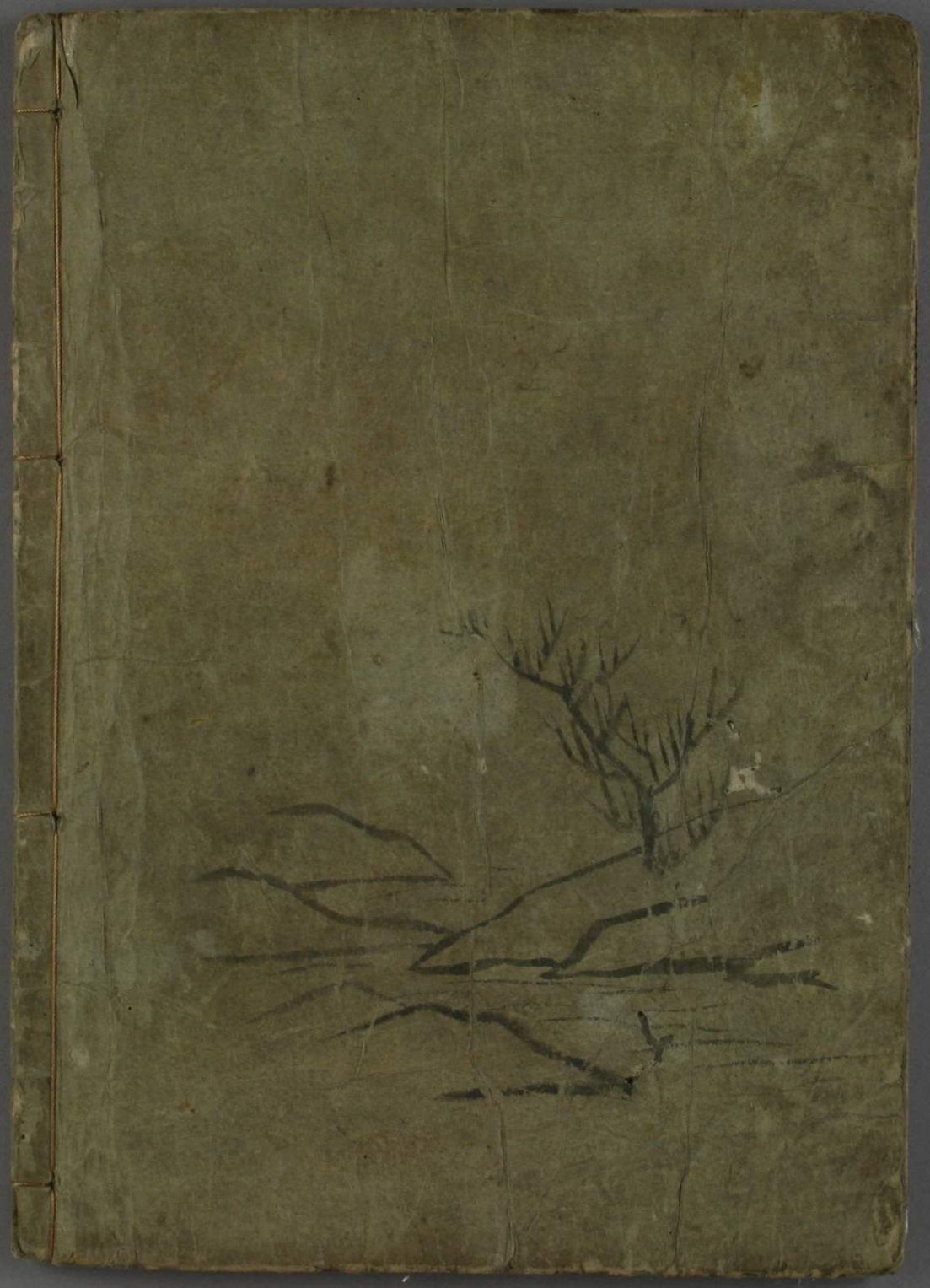
[illegible]

[illegible]

[illegible]

●ひろめ書ちゅうこと

京町鑑 懐中本 全部一冊

縦横町小路通筋古名西陣聚樂上京
下京古町新町組町分洛中洛外寺社
方角古今由来祇園會山鉾出町々七日
十四日差別御大名御屋舗附并呉服所
家名所附名物名産諸商賣店々所町々
小名辻子新地等至迄委記見分安便

右之本當春ちゅうこと
京麩や丁せのらうんじ下ル町
板元 八ちんじゃ